

2 . 流域及び河川の自然環境

2 - 1 自然環境

(1) 流域に生息する動植物

植物

1) 陸上植物

本流域の植生を概観すると暖帯から亜寒帯まで多種多様である。上流部の剣山・石立山・池野河山・湯桶丸等の周辺にはブナやモミの林を中心とする自然植生がみられるが、中流部ではスギ、ヒノキ等の植生が、また、下流部では桑野川流域の低山帯を中心に発達したアカマツ林とスギ、ヒノキ林の植林等の代償植生がほとんどを占める。

那賀川では、下流部は直線的な河道の中に典型的な交互砂州が形成されており、砂州上の植生は冠水頻度と水分環境に応じて帯状に分布している。また、流水部にはツルヨシ群落やヤナギタデ - オオイヌタデ群落が分布している。山付き部にはアラカシ群落等の樹林環境や露岩からなる自然裸地が点在する。

河口付近の海岸部においては、ハマエンドウ - ハマヒルガオ群落、ケカモノハシ群落、コウボウムギ群落等の海浜植生が分布している。低水路の干潟部においては、ハママツナ群落、ハマサジ群落、ウラギク群落等の近年激減している塩沼植物群落がまとまって分布している。また、河口付近の浅瀬においてはコアマモ群落も存在する。

高水敷は、やや湿った砂質地にはオギ群落が見られ、やや乾いた立地にススキ群落、富栄養な適潤地にはクズ群落、適潤の陽地には河川敷によくみられる帰化植物群落であるセイタカアワダチソウ群落等が分布している。

桑野川では砂州、低水路の発達は見られず、山付き部分の斜面林としてスギ - ヒノキ植林、竹林が分布し、高水敷においてはチガヤ群落、ススキ群落が多くを占めている。なお、岡川との合流地点付近まで塩分の影響を受けており、ヨシ群落（塩沼地）やエゾウキヤガラ群落等が小面積で存在する。

なお、沢谷のタヌキノショクダイ発生地、長生の暖地性樹林、那賀町（旧鷺敷町）のボウラン自生地、新野のクスの群生は、国及び県の天然記念物としても指定されている。また、那賀川の鷺敷ライン沿いを中心に生育しているナカガワノギクは徳島県の特産種であり極めて貴重であるほか、ミゾコウジュやカワヂシャ等の河川に特有な植物やハマサジやウラギク等、徳島県で唯一の塩生植物群落が小規模ながらも残存している。



タヌキノショクダイ
暖地における常緑樹林の落ち葉の間に生えるごく小さな弱々しい多年草。花期は7～8月。
四国内に分布する希少種であり、沢谷の発生地は国の天然記念物として指定されている。



ナカガワノギク
徳島県那賀川沿いを中心に分布し、川岸の岩山に生える多年草。茎は高さ30～40cmで、多くは岩上から垂れる。花期は11～12月。

2) 水生植物

付着藻類については四国内の他の河川と同様、藍藻あるいは珪藻を中心として一部緑藻を混じえた相を形成している。

河口付近では天然スジアオノリが生育し、ヒトエグサの養殖も行われている。

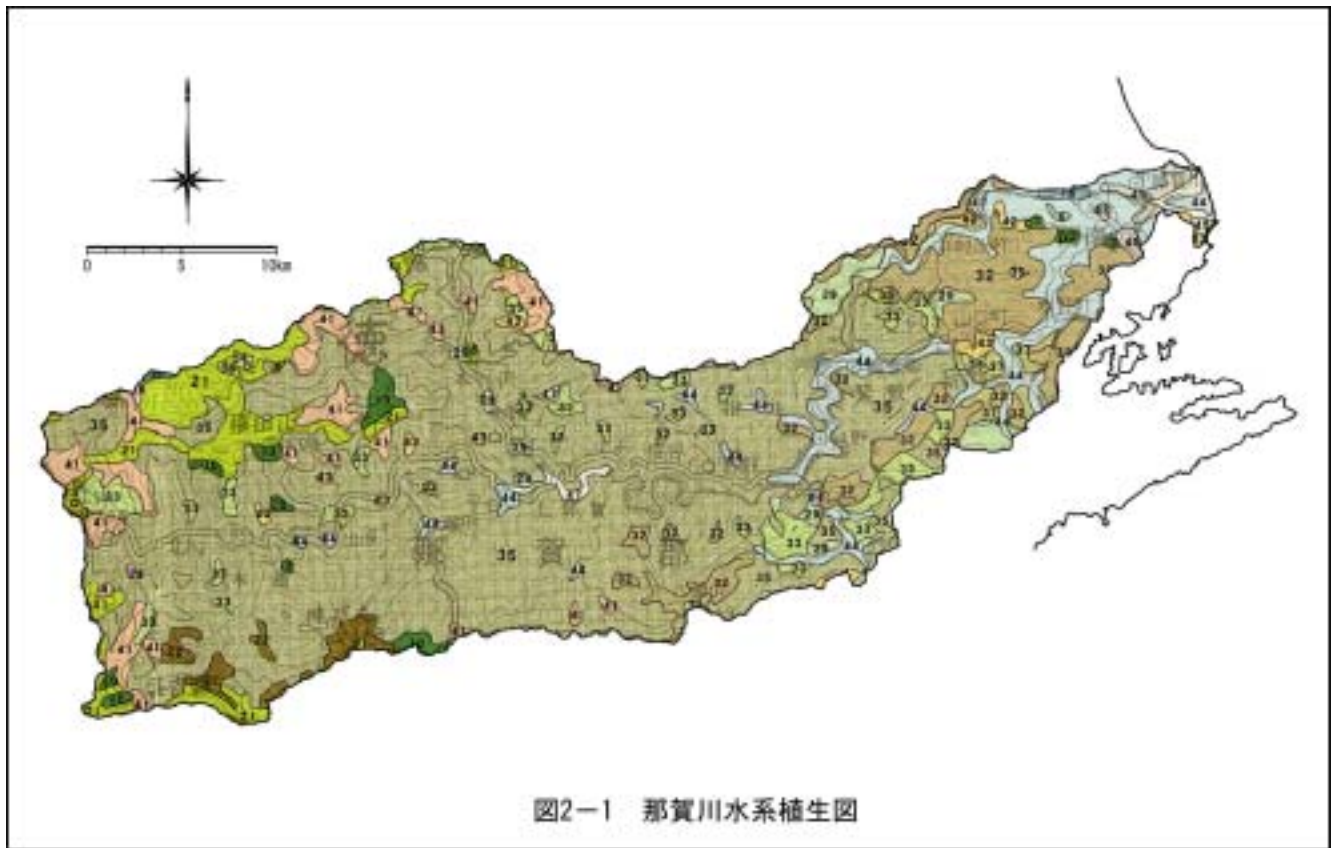


図2-1 那賀川水系植生図

調査者：宮脇 昭・奥田重俊（横浜国立大学環境科学研究センター）
 出典：日本植生誌（四国1982）榊至文堂

凡 例

I. 自然植生

A. ヤブツバキクラス域

- 1 ホソバカナツラビースダジイ群集, ミミズバイースダジイ群集
- 6 シラカシ群集, ツタバネガシ-シラカシ群集
- 7 イロハモミジ-ケヤキ群集
- 16 コガクウツギ-モミ群集
- 18 コシクラス (紙層草原; ヨシ, 大形スゲ草原植生)

B. ブナクラス域

- 21 シラキ-ブナ群集, コハクウンボク-ケイヌブナ群集
- 24 アケボノフツジ-フガ群集 他

C. コケモートウヒクラス域

- 26 シコクフウローショウジョウスグ群集 (風衝草原)

II. 代償植生

- 28 シイ, カシ萌芽林
- 32 オンツツジ-アカマツ群集
- 33 クスギ-コナラ群集 他
- 36 イヌシダ-クマシダ群落 他
- 38 スギ, ヒノキ疎林
- 37 モウソクチク-マダケ林
- 41 パシパシボロギケ-ダンドボロギケ群集 他 (伐採地草本植物群落)
- 42 ヤハズエンドウ-ケムヅ群落 (果樹園雑草群落)
- 43 カヤブリグサ-ザクロソウ群集 (畑地雑草群落)
- 44 ウリカワ-コナギ群集 他 (水田雑草群落)

III. その他

- 45 集落, 市街地
- 47 開放水域

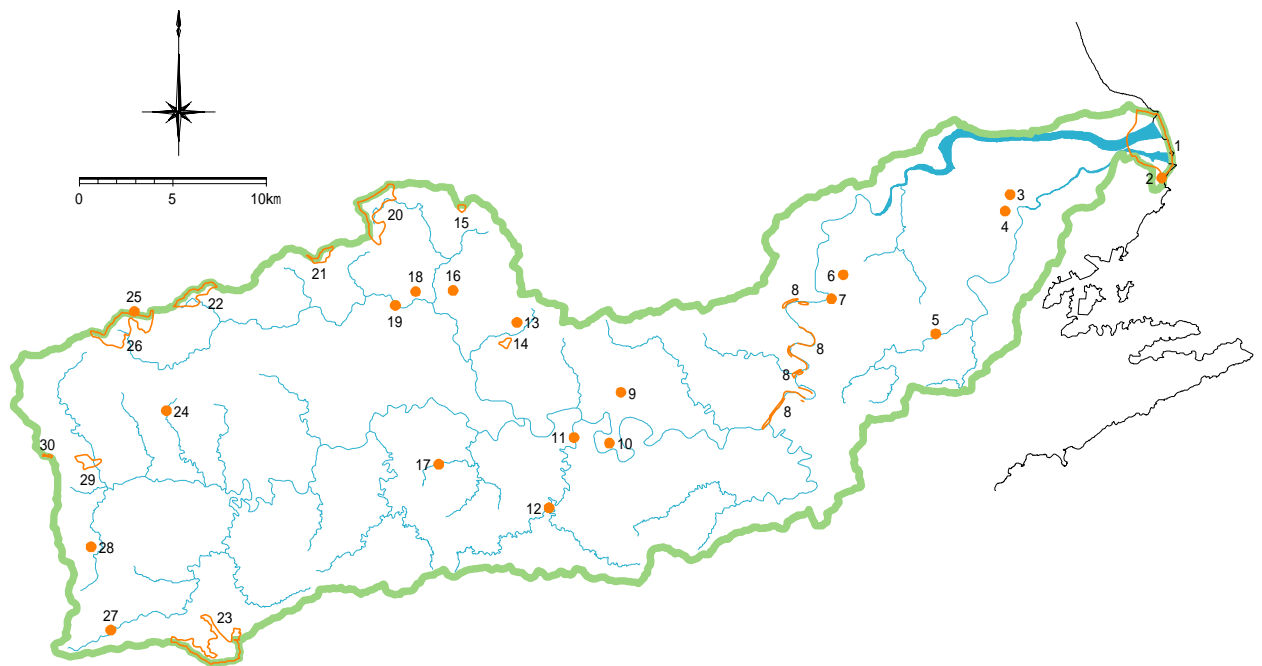


図2-2 那賀川流域の特定植物群落

項目	出典			
	学	県	国	学
1	那賀川河口の海浜植生と鳥類生息地	学		
2	淡島の海浜植物群落		D	
3	長生のホルトノキ林		E	E
4	大谷の暖帯樹林	県		
5	新野の樟の群生	県		
6	太龍寺山のカヤ林		A	A
7	和食のボウラン自生北限地	県		
8	鷲敷ラインの河床植生	学	D	D
9	白ヶ谷のカヤ林		A	A
10	水崎のカシ林		E	E
11	古屋春日神社のコジイ林		E	E
12	上那賀町礪神社のアカガシ林		E	E
13	棚平・大美谷の蛇紋岩地植生	学		
14	大美谷の蛇紋岩地植生		D	D
15	雲早山のブナ林		A	A
16	杖谷山の石灰岩地植生	学	D	D
17	成瀬神社のアカガシ林		E	E
18	沢谷のタヌキノシヨクダイ発生地	国	C	C
19	木沢村のカワノリ自生地	学		
20	高城山のブナ林	学		A
21	モミジカラマツ・レンゲショウマ	学	B	B
22	肉測谷のブナ林			A
23	湯桶丸の原生林	学	A	
24	折宇谷のコウヤマキ林			D
25	剣山の亜寒帯植物樹林	県		
26	剣山の植生	学	A	D,H
27	天霧滝のスギ天然林	学		
28	千本谷のコウヤマキ林	学		
29	高の瀬峡の石灰岩地植生	学	D	D
30	石立山の植生	学	C	C

出典

「天然記念物緊急調査」
 - 徳島県主要動植物地図 - 文化庁1975年発行
 国：国指定天然記念物
 県：徳島県指定天然記念物
 学：学術上価値の高い生物群集及び生物の所在地

「自然環境保全調査」
 - 徳島県すぐれた自然図 - 環境庁1976年発行

「第2回自然環境保全基礎調査」
 - 徳島県動植物分布図 - 環境庁1981年発行

「第3回自然環境保全基礎調査」
 - 徳島県自然環境情報図 - 環境庁1989年発行

特定植物群落選定基準

記号	理由
A	原生林もしくはそれに近い自然林
B	国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群
C	比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
D	砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿気、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
E	郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
F	過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
G	乱獲その他人為の影響によって、当該都府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
H	その他、学術上重要な植物群落または個体群

動物

那賀川流域は、地形・気象とも変化に富み、特に上流の那賀町（旧木頭村・旧木沢村）の山岳部を中心として学術上貴重な種が数多く生息している。

1) 哺乳類

上流域を中心にニホンザル、ツキノワグマ、ニホンカモシカ等が確認されており、このうちニホンカモシカは国の天然記念物に指定されている。

下流の高水敷にはコウベモグラ、カヤネズミ、ノウサギ、イタチ科の一種、タヌキ等の痕跡が比較的多く確認されている。

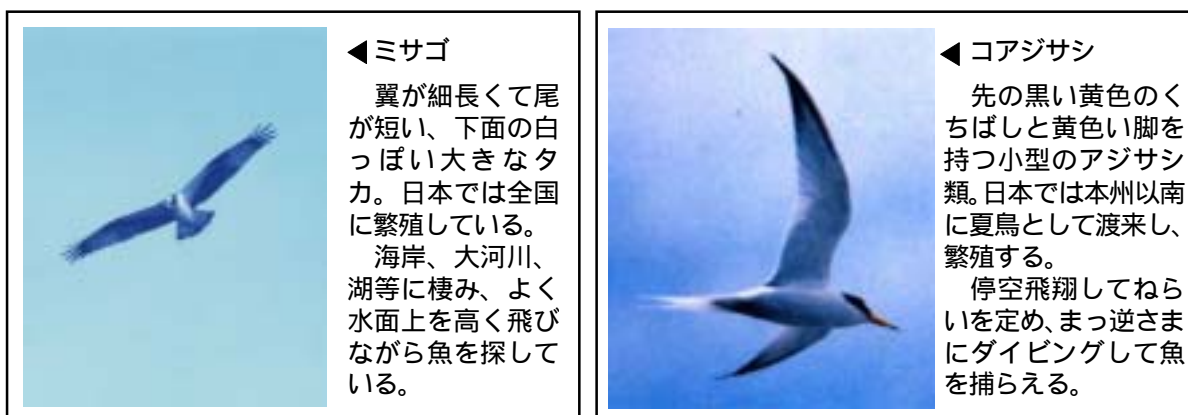
2) 鳥類

那賀川上流では、周辺に山地があり、樹林地が多く分布するため、ツツドリ、ホトトギス、コゲラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ等、主に山地、樹林地に依存している種が出現している。草地や低木林が多く分布している場所では、陸域を生息の場所として利用しているホオジロ、スズメ、ムクドリ、カラス類等のスズメ目の種や、カワセミ、キジバト等も多く生息している。

河口域は、シギ・チドリ類、カンムリカイツブリ、コアジサシ等の渡り鳥の重要な渡来地となっているほか、カモ類やカモメ類を中心とした大規模な集団が確認されており、当地域はこれらの種にとって重要な越冬地となっていると考えられる。

猛禽類では、ミサゴ等の海岸に生息するものからクマタカ等の亜高山帯に生息するものまで多くの種が確認されている。その他、ヤマセミ、コマドリ等、深山や清流でしか見られない鳥類も記録されている。

桑野川の下流は市街地に囲まれた狭い水域と草地を中心とし、低木林や樹林地がほとんど見られないため、陸域に生息する種もヒバリ、オオヨシキリ、セッカ等、草地等に依存して生活する種に限られる。



3) 両生類・爬虫類

サンショウウオが4種確認されており、平地止水型のカスミサンショウウオは下流部の細流に、高山溪流型のブチサンショウウオ、オオダイガハラサンショウウオ、ハコネサンショウウオは剣山周辺の谷川に生息している。下流域の流れの緩やかなところではクサガメが、水田地帯ではアマガエルやトノサマガエル、ツチガエル等が見られる。また、桑野川の下流では、流速が弱く、止水環境を好むウシガエルやクサガメが多い。

4) 陸上昆虫類

下流域ではエンマコオロギ、ツユムシ、トノサマバッタ、ツチイナゴ等のバッタ目やツマグロヨコバイ、ナカグロメクラカメムシ、ヒメナガカメムシ、マルカメムシ等のカメムシ目、メイガ科、セセリチョウ科等のチョウ目等の草地依存型の種群が多く占めているほか、砂礫質の水際を好むミズギワゴミムシ類や砂地に生息するオサムシモドキ、スナゴミムシダマシ類が多数確認されている。

また、上流山岳部には、国蝶であるオオムラサキやムカシトンボ、コウチュウ類のケンザンメクラチビゴミムシ等が生息する。

5) 魚類

魚類では、本川上流域ではアマゴ、ニジマス、タカハヤ、カワヨシノボリ等が、中流域ではアユ、カワムツ、オイカワ、ウグイ、カマツカ等が、下流域ではサツキマス、カマキリ、メダカ、コノシロ、ボラ、チチブ等が代表的な種としてあげられる。貴重な種としては、上流域でナガレホトケドジョウやアカザ、下流域ではウツセミカジカ等が生息している。

桑野川では県の天然記念物であるオヤニラミの生息が知られており、阿南市新野町新野西小学校から川亦までの区間は保護区に指定されている。



ウツセミカジカ

カジカ科。一般的には琵琶湖のみで生息するが、那賀川のウツセミカジカは四国小卵回遊型であり、那賀川下流域が四国内唯一の生息域となっている。

瀬頭に生息し、肉食性で水生昆虫や甲殻類等の底生小動物を主に捕食する。



オヤニラミ

スズキ科。生息地は大河川の中・下流域や支流の流れのゆるやかな場所に多く、環境により体色が変わる特色がある。

肉食性で小型の水生昆虫等丸のみにできるものを捕食する。

1967年に徳島県の天然記念物に指定。

6) 底生動物

那賀川河口部の代表的出現種は汽水性の甲殻類、貝類であるイソコツブムシ、イシマキガイ、ケフサイソガニ等であり、その上流では、エルモンヒラタカゲロウやシロタニガワカゲロウ、アカマダラカゲロウ、フタバコカゲロウ等のカゲロウ類、ウルマーシマトビケラ、ヒゲナガカワトビケラ等のトビケラ類、カワゲラ類、ヘビトンボ類、エリユスリカ類やブユ類等の昆虫類が多い。

一方、桑野川河口部では汽水性のゴカイ、ドロオニスピオ、イソミミズ、イトミミズ科やユスリカ科が多く出現する。

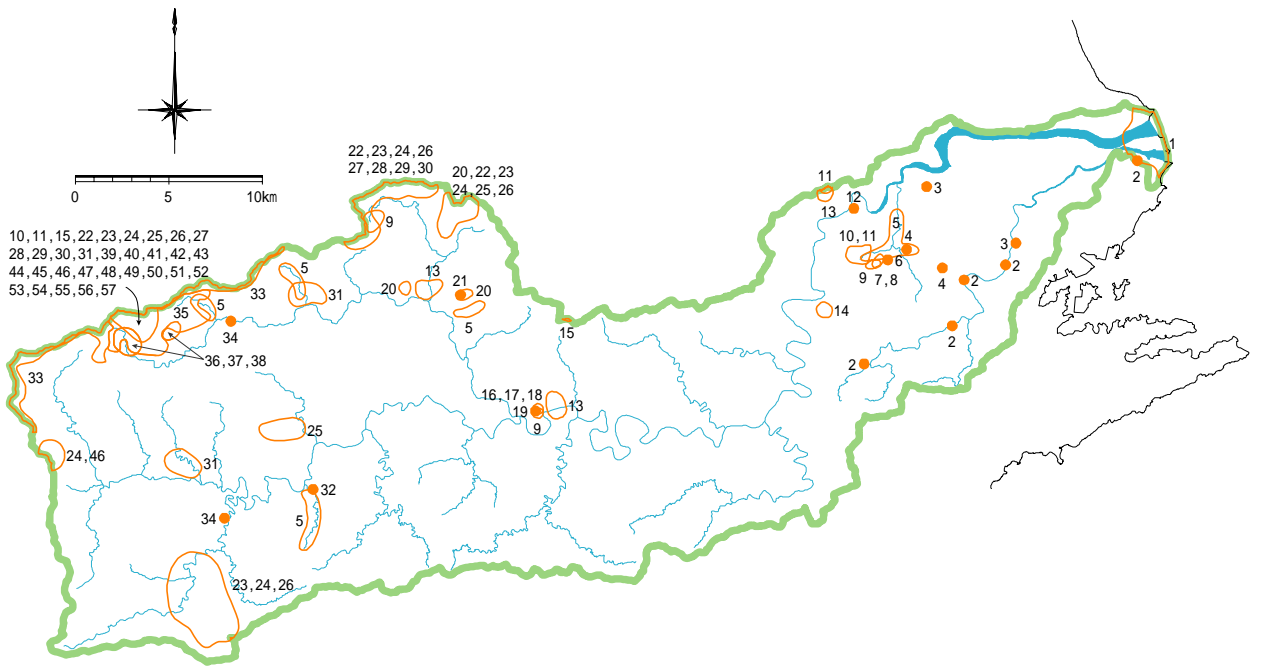


図2-3 那賀川流域の貴重な動物

項目	分類	出典	
1	那賀川河口の海浜植生と鳥類生息地	生	学
2	オヤニラミ	魚	県
3	カスミサンショウウオ	両	
4	ホトケドジョウ	魚	
5	ムカシトンボ	昆	指
6	竜ノ窟の洞窟動物生息地	生	学
7	リュウノメクラチビゴミムシ	昆	E
8	リュウノツヤムネハネカクシ	昆	E
9	ガロアムシ目	昆	指
10	ケンザンミヤママルガタゴミムシ	昆	A
11	アワオサムシ	昆	B
12	大竜寺山並水井の陸貝生息地	生	学
13	オオムラサキ	昆	指
14	タガメ	昆	指
15	シコクトゲオトンボ	昆	B
16	キウチメクラチビゴミムシ	昆	A
17	ヨシダメクラチビゴミムシ	昆	A
18	ヒメセメクラチビゴミムシ	昆	A
19	日店洞の洞窟動物生息地	生	学
20	トウゲンメクラチビゴミムシ	昆	A
21	桃源洞群の洞窟動物生息地	生	学
22	シコククロナガオサムシ	昆	B
23	ヒサゴチビゴミムシ	昆	B
24	ツノクロツヤムシ	昆	B
25	スジボソヤマキチョウ	昆	C
26	セダカコブヤハズカミキリ	昆	C
27	ツルギマルゲンバイ	昆	A
28	ツルギヤマナガゴミムシ	昆	A
29	ツルギヤマツヤゴモクムシ	昆	A
30	ツルギテントウダマシ	昆	A
31	ウスバシロチョウ	昆	学 C
32	木頭のキュウシュウモモンガ生息地	生	学
33	ニホンカモシカ	哺	国
34	アマゴ生息地	生	学
35	ニホンツキノワグマ生息地	生	学
36	ブチサンショウウオ	両	
37	オオダイガハラサンショウウオ	両	
38	ハコネサンショウウオ	両	
39	ケンザンヌレチビゴミムシ	昆	A
40	ケンザンメクラチビゴミムシ	昆	A
41	カワノナガゴミムシ	昆	A
42	チュウジョウナガゴミムシ	昆	A

項目	分類	出典	
43	ヨシダヒゲナガアリツカムシ	昆	A
44	シバタヒゲナガアリツカムシ	昆	A
45	ツルギツヤムネハネカクシ	昆	A
46	キュウシュウエソゼミ	昆	B
47	キシタケンモン	昆	B
48	クロオビシロナミシャク	昆	B
49	イシハラヒメナガゴミムシ	昆	B
50	キンスジコガネ	昆	B
51	ミナミヤンマ	昆	C
52	コエソゼミ	昆	C
53	エゾハルゼミ	昆	C
54	ソウウンアワフキ	昆	C
55	ツマジロウラジャノメ	昆	C
56	エゾヨツメ	昆	C
57	トワダオオカ	昆	D

分類(略号)の説明

略号	種類	略号	種類
哺	哺乳類	魚	魚類
両	両生類・爬虫類	生	注目すべき生息地
昆	陸上昆虫類		

出典

「天然記念物緊急調査」
 - 徳島県主要動植物地図 - 文化庁1975年発行
 国：国指定天然記念物
 県：徳島県指定天然記念物
 学：学術上価値の高い生物群集及び生物の所在地

「第2回自然環境保全基礎調査」
 - 徳島県動植物分布図 - 環境庁1981年発行
 指：指標昆虫類

特定昆虫類選定基準

記号	理由
A	日本国内では、そこにしか産しないと思われる種
B	分布域が国内若干の地域に限定されている種
C	普通種であっても、北限・南限など分布限界になると思われる産地に分布する種
D	当該地域において絶滅の危機に瀕している種
E	近年当該地域において絶滅したと考えられる種

(2) 河川の特性

河床勾配

那賀川は、全国の主要な河川の中でも勾配が急な河川であり、洪水の流出が早く、流出量も短時間で急激に増加する傾向にある。また流域の地形が急峻であること、台風常襲地帯に位置し全国でも有数の多雨地帯であることから、全国の主要な河川の中でも洪水流量が大きく、その反面、雨が降らなければ渇水が発生しやすいという特性を持つ河川である。

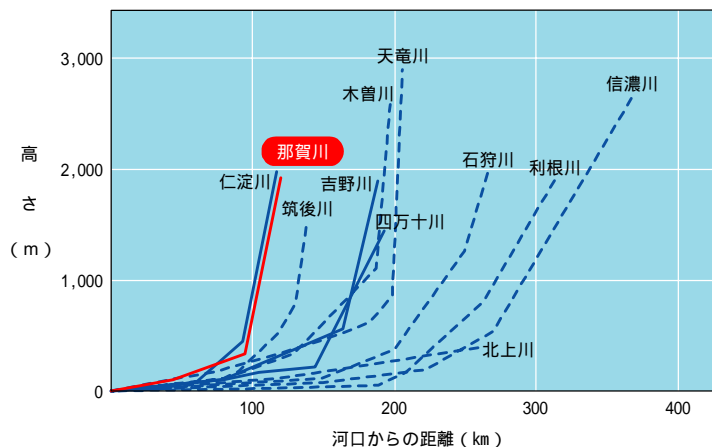


図2 - 4 那賀川の河床勾配を全国主要河川と比較

那賀川は、河状係数が1,000であり、全国主要河川と比較すると非常に大きな値を示しており、流況が不安定な河川といえる。

(河状係数は各河川の代表地点流況により算出)

河川名	地点名	最大流量 (m ³ /s)	最小流量 (m ³ /s)	河 状 係 数 (最大流量 / 最小流量)
吉野川	岩津	6,700	22	305
那賀川	古庄	3,000	3	1,000
仁淀川	伊野	4,900	12	408
四万十川	具同	5,600	19	295
石狩川	石狩大橋	3,500	101	35
北上川	狐禅寺	2,900	75	39
利根川	八斗島	4,200	56	75
信濃川	小千谷	3,500	82	43
木曾川	犬山	5,300	43	123
天竜川	鹿島	3,600	41	88
筑後川	瀬ノ下	3,000	25	120

流量年表より作成 (平成5年～平成14年平均)

図2 - 5 那賀川の河川特性を全国主要河川と比較

(*注1) 河状係数

年間を通じた最大流量と最小流量の比率(最大/最小)であり、これが大きい河川は洪水流量が大きく、かつ渇水も発生しやすいといえる。一方、河状係数の小さい河川は、流況が比較的安定した河川であり、洪水流量も小さめといえる。

交互砂州

那賀川は扇状地河川のため、流路が安定していなかったが、昭和4年に始まった直轄改修事業によりようやく安定した。昭和20年代の砂州は一部複列の様相を呈していたが、昭和30年頃から徐々に単列化し始め、昭和40年代には顕著な単列砂州が形成された。単列砂州は移動・消失・形成を繰り返し、そのため生じる水衝部は、徐々に洗掘が進行するため、堤脚部の局所洗掘が頻発している。

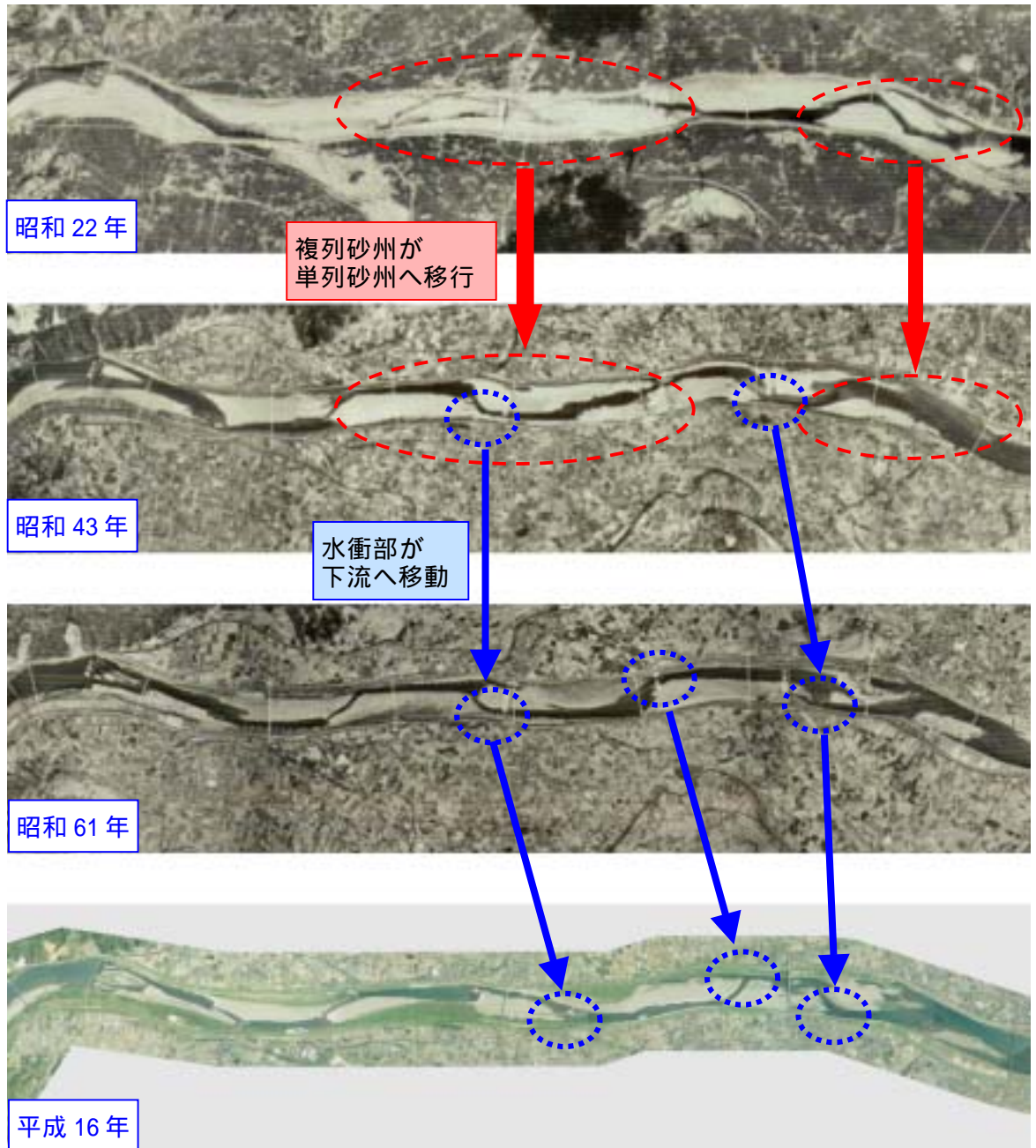
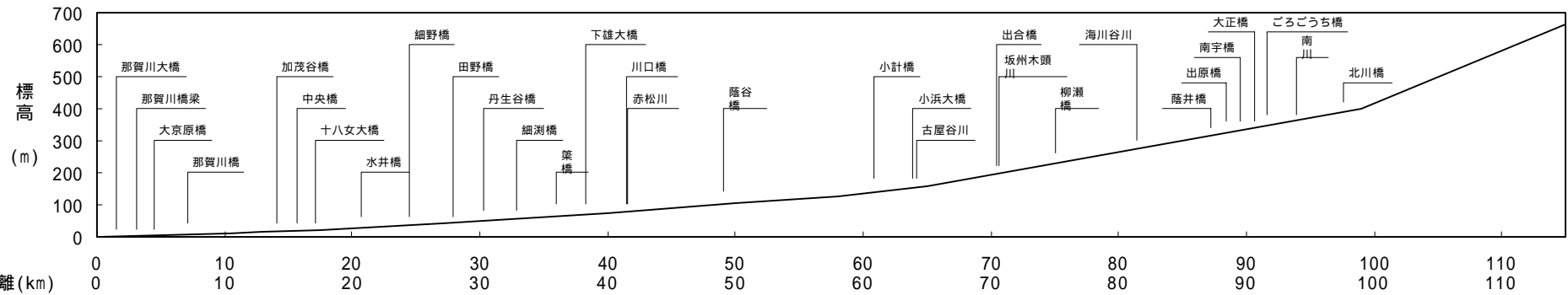
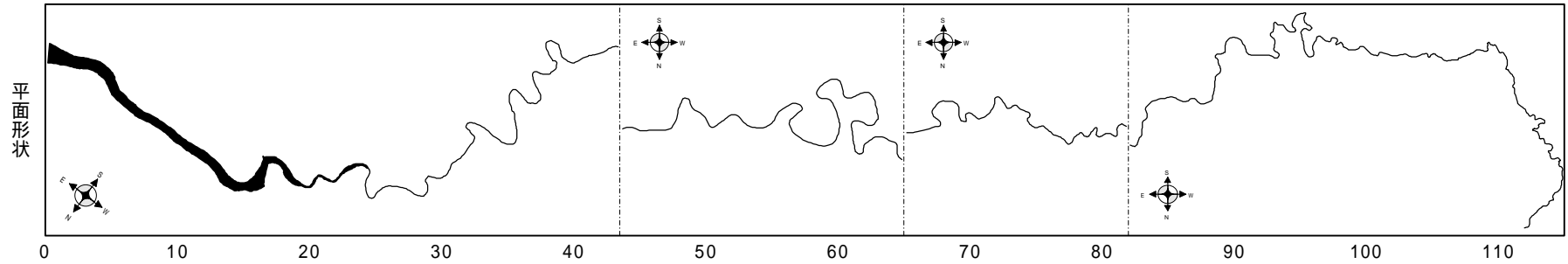
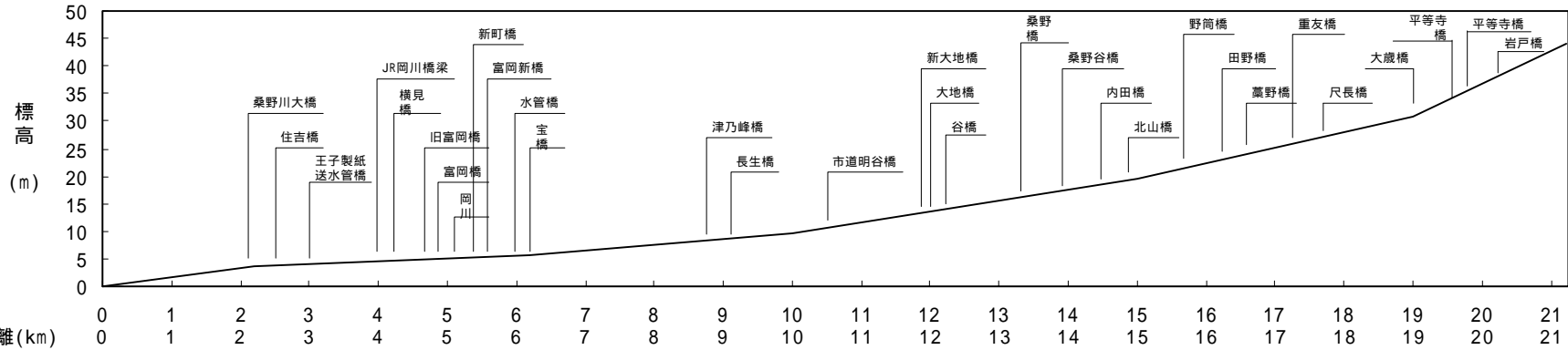
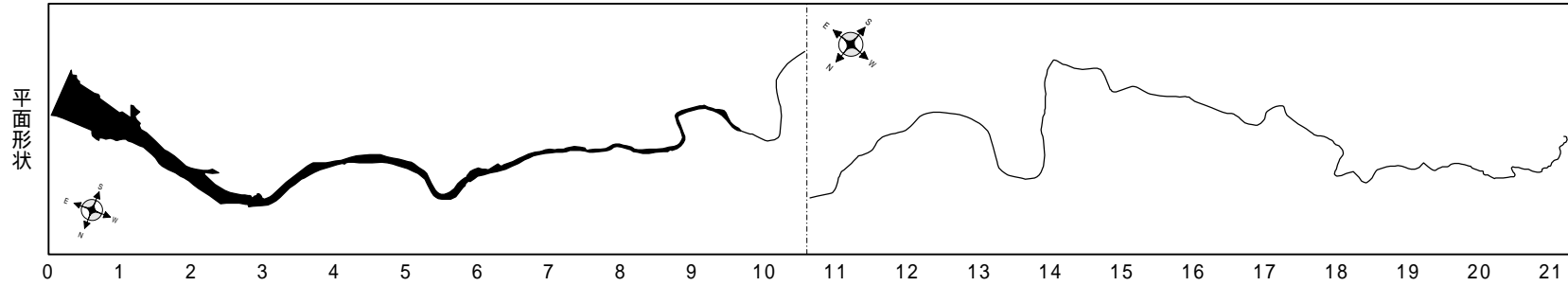


図2 - 6 那賀川砂州の経年変化



河川区分		潮止堰 下流		潮止堰 - 北岸用水堰		北岸用水堰 ~ 大西堰		大西堰 - 和食		和食 - 谷内川 合流点		谷内川合流点 ~ 川口ダム		川口ダム ~ 長安ロダム		長安ロダム ~ 小見野々ダム		小見野々ダム ~ 北川		北川上流										
河道 状況	周辺地形	平地						山地																						
	勾配	1/860		1/480		1/880		1/440		1/400		1/470		1/330		1/360														
	構造物等	潮止堰		北岸堰		南岸堰		大西堰		川口ダム		長安ロダム		小見野々ダム																
河床形態	セグメント2-2						セグメント2-1						セグメントM																	
景観	東山溪原立 自然公園						鷺敷ライン						立中 自然山溪 公園				歩危峡													
生物	ヒナハゼ・カマキリ		オヤニラミ・ヒメハ		ミサゴ・カワウ		カワセミ・ボウ		タガメ		ボウラン		ハゼ・カマス・ボウ		ウツセミ・カシカ		ヤマセミ		オオムラサキ		トサシモツケ		カマキリ・カシカ		ヤマセミ		ムカシトンボ		カシカ	

図2 - 9 那賀川河川特性縦断面図



河川区分		一の堰下流 (感潮区域)		一の堰 ~ 明谷			明谷 ~ 新野					
河道状況	周辺地形	平地 (単断面)		平地 (複断面)			平地 (単断面)					
	勾配	1/590	1/2,000	1/1,000			1/400 ~ 1/600		1/300 ~ 1/400			1/150 ~ 1/300
	構造物等			一の堰			堰	井上口堰	新井堰	馬場入堰	白池堰 藁野堰 尺長堰 野間堰	馬場入堰
	河床形態	セグメント3	セグメント2-1									セグメント1
景観	阿南公園 津乃峰公園		石門公園			八銚神社		明谷梅林		轟神社 平等寺		
生物	ニ イソガニ カニ モクスガ		ア ハヤブサ サ ハラサギ			ヒ ナ ハゼ メ ダ カ カ ワ ク ラ ク		ミ ソ コ ウ シ ユ		オ ヤ ニ ミ		モ ノ ア ラ ガ イ ・ ク ロ ダ カ ワ ニ ナ ・ モ ク ス ガ ニ ・ ヨ コ ミ ソ ド ロ ム シ

図2 - 10 桑野川河川特性縦断面図

三角州扇状地

那賀川の下流平野部は典型的な三角州扇状地が形成されており、想定氾濫区域は流域外にまで拡がり、想定氾濫区域内人口（約71,000人）は流域内人口（約58,000人）より多い。

また、洪水時の河川水位は、居住地よりも高く、下流平野部には人口及び資産が集中しているため、破堤時の被害ポテンシャルが大きい。



図2 - 7 那賀川河口部に拡がる三角州扇状地

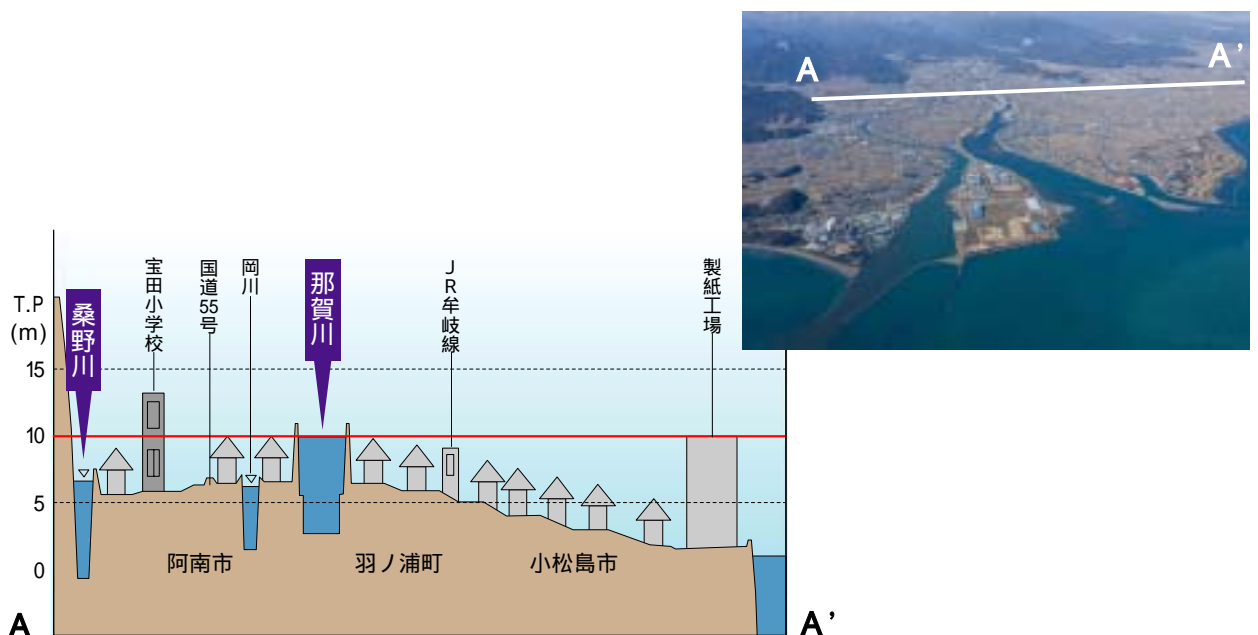


図2 - 8 居住地よりも高い洪水時の河川水位

2 - 2 特徴的な河川景観や文化財等

(1) 河川景観とその利用

那賀川の代表的な河川景観は以下の通りである。

高の瀬峡 (No.39)

徳島観光百選第一位の渓谷。天恵の渓谷美と雄大な石灰岩の岩絶壁をいろどる紅葉の調和は神秘的な魅力をたたえ、天下の絶景となっている。



天霧の滝 (No.41)

南川林道終点近くにあり、水しぶきが霧となって流れおちる様が美しい。



歩危峡 (No.30)

国道195号線沿いに1 km程の岩盤絶壁があり、春の新緑と秋の紅葉が美しい。



大釜の滝 (No.23)

日本の滝百選にも選ばれた美しい滝で、落差12m。国道わきの急な階段を下りて滝に近づくと、眼下の滝つぼはその名の通り大きな釜の形をしていることがわかる。深さは15mもあり、大蛇が住んでいるという言い伝えもある。



鷲敷ライン (No.11)

阿波八景十二勝の一つで、「四国のみずべ八十八カ所」に選定されている。激流が奇岩にぶつかって砕け、白く渦巻く。一方で、濃い青色をたたえて静かに流れる深い淵。那賀町(旧鷲敷町)を流れる那賀川の表情は実に豊かである。



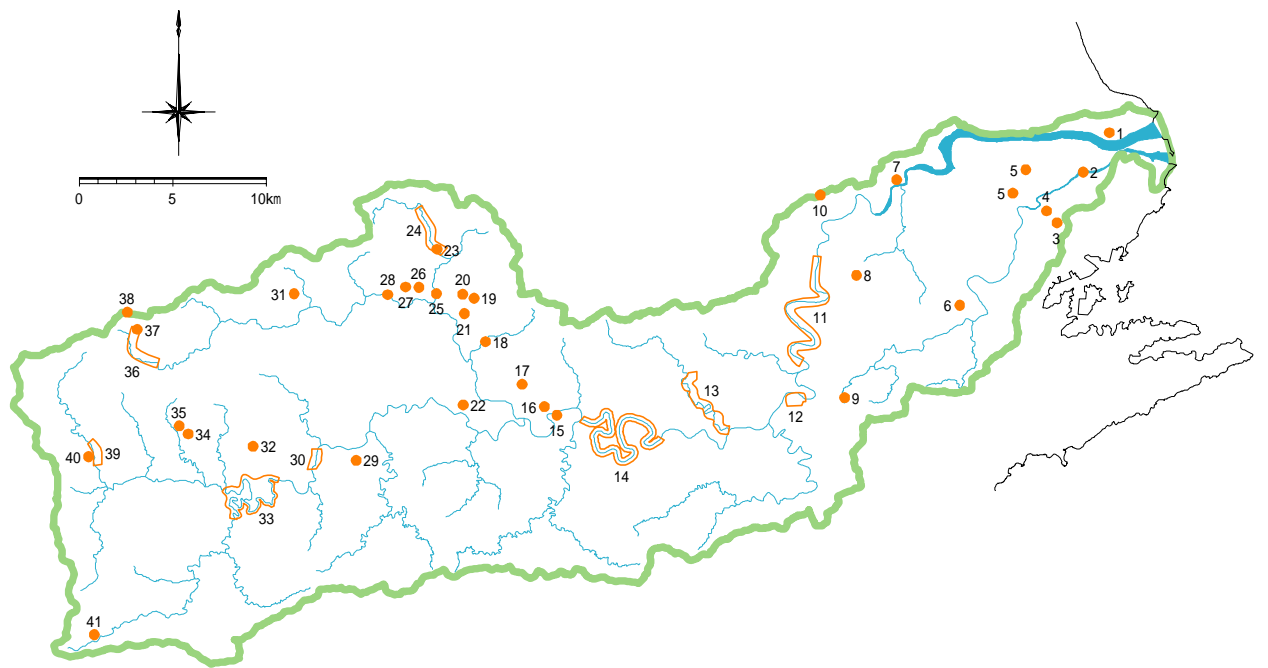


図2 - 11 那賀川流域の自然環境資源

項目	出典	
1	平島公方の邸跡と西光寺	
2	立善寺	
3	津峯神社	
4	石門	
5	八銚神社	
6	平等寺	
7	牛尾の滝	
8	太竜寺（太竜寺山）	
9	お釜の滝	
10	鶴林寺（鶴林寺山）	
11	鷲敷ライン	
12	中雄段丘	
13	紅葉川渓谷	
14	穿入蛇行河川（那賀川中流）	
15	大戸洞	
16	日店洞	
17	観音滝	
18	千本滝	
19	桃源第2洞	
20	桃源第1洞	
21	黒瀧山	
22	権現洞	
23	大釜の滝	
24	釜ヶ谷峡谷	
25	大轟の滝	
26	明神第2洞	
27	明神第1洞	
28	新居田の滝	
29	源蔵ノ窟	
30	歩危峡	

項目	出典	
31	雨乞の滝	
32	西宇洞	
33	穿入蛇行河川（那賀川上流）	
34	折宇第2洞	
35	折宇第1洞	
36	槍戸溪谷	
37	ほら貝の滝	
38	剣山山頂	
39	高の瀬峡	
40	仙人の滝	
41	天霧の滝	

出典

「自然環境保全調査」
- 徳島県すぐれた自然図 - 環境庁1976年発行

「第3回自然環境保全基礎調査」
- 徳島県自然環境情報図 - 環境庁1989年発行

(2) 観光

那賀川には、春の新緑や山菜採り、夏のキャンプ、カヌー等の川遊び、鮎やアマゴ釣り、秋の紅葉とハイキング、冬の雪と氷柱等訪れる人を楽しませてくれる自然が豊富である。

古庄水神祭り (No.1)

洪水被害や水難事故が頻発していた那賀川下流には、沿川の13箇所水神社が祀られ、古庄の水神社では毎年「水神祭り」が行われている。



万代祭り (No.4)

下流平野を洪水から守るために万代堤を築造した吉田宅兵衛の遺徳を偲ぶ祭りで、水生生物調査や鮎のつかみ取り等が実施される。



阿南の加茂谷鯉まつり (No.5)

那賀川河川敷で毎年行われる祭りで、子供の健やかな成長を願って約2000匹の鯉のぼりが吊るされる。



エキサイティングサマーinワジキ (No.7)

那賀川の水を利用している地元企業による地域おこしとして開催される真夏の一大イベント。



カヌー大会 (No.8)

驚敷ラインで行われ、全国から多数のカヌーファンが詰め掛ける。



木頭杉一本乗り大会 (No.14)

上流で伐採した木頭杉の搬出手段であった丸太流しの伝統芸「一本乗り」を復活させるため、昭和60年から始まった大会。



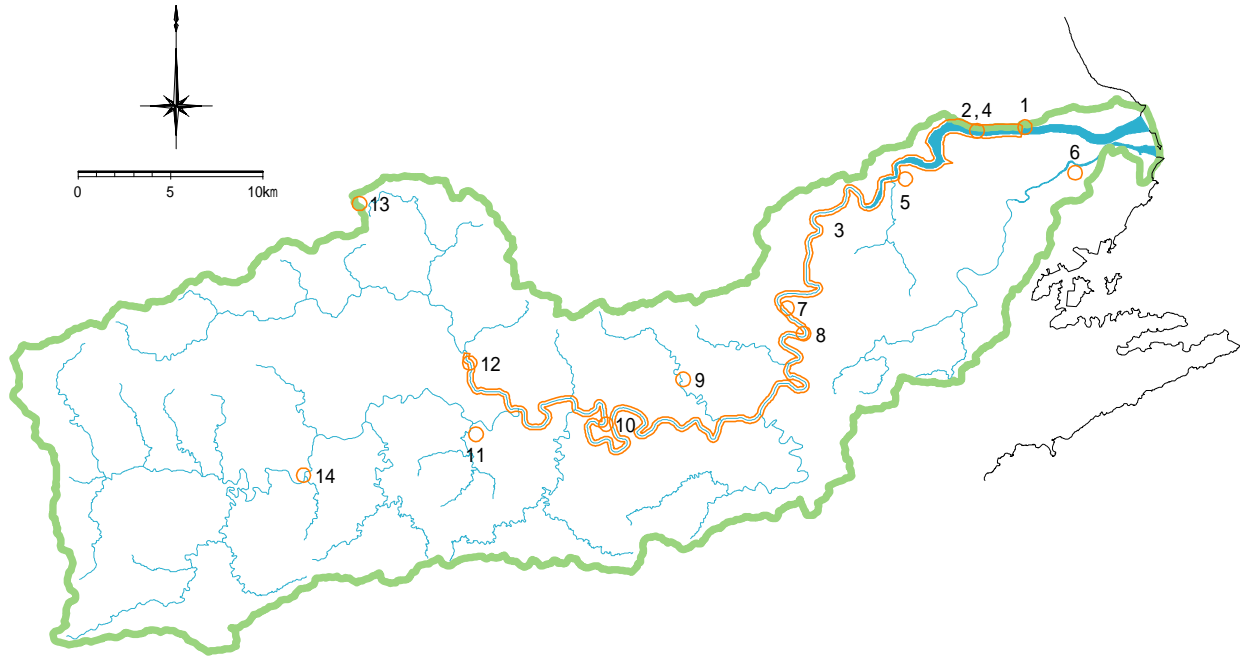


図2 - 12 那賀川流域の水辺を利用した行事・イベント等

市町村名	No.	行事名	実施時期	内容	
羽ノ浦町	1	古庄水神祭り	8月中旬	打ち上げ花火大会	
	2	親子ハイ釣り大会	4月下旬	那賀川で親子ハイ釣り、バーベキュー大会、アウトドア教室等	
	3	那賀川流域センチュリーラン羽ノ浦大会	5月中旬	サイクリストの親睦と若者の体力向上を目指し、那賀川流域をサイクリング	
	4	万代祭り	7月中旬	水生生物調査と各種イベント	
阿南市	5	阿南の加茂谷鯉まつり	5月上旬	2000匹の鯉のぼりと各種イベント	
	6	天神社祭り(花火大会)	7月下旬	打ち上げ花火大会	
那賀町	旧鷺敷町	7	エキサイティングサマー イン ワジキ	8月	野外ステージではコンサートが行われている。真夏の一大イベント。
		8	カヌー大会	10月下旬	カヌー大会
	旧相生町	9	あめご釣り大会	4月	大会前日に放流するアマゴ5000匹を釣る。毎年県外からも多数参加。
	旧上那賀町	10	水崎88カ所廻り	4月	4月中旬(旧暦3月21日)は弘法大師の命日で大勢の参拝者が訪れる。
		11	平谷八幡神社例大祭	11月	八幡神社境内にて行われる秋祭り。
	旧木沢村	12	木沢つらら祭り	7月下旬	アマゴのつかみどり等
		13	きさわ樹氷祭り	1月下旬～2月上旬	山の散策、巨大なつららの採取、雪合戦、そり遊び
			木沢もみじまつり	11月	槍戸峡は美しく色づき、観光客を魅了する。村内各地ではさまざまなイベントが行われる。
旧木頭村	14	木頭杉一本乗り大会	8月上旬	杉の一本乗り大会	
直轄全域		河川一斉清掃	7月上旬	ボランティアによる河川の一斉清掃	

(3) 歴史・文化

流域の文化財は、国指定が16、県指定が49、市町村指定が100の計165ある。このうち、河川に極めて関係の深いものを抽出すれば、桑野川の「オヤニラミ」（県指定天然記念物）、本川中流の「鷲敷ライン及び氷柱観音」（県指定名勝）ならびに上流那賀町（旧木沢村）内の「ほら貝の滝」、「大釜の滝」、「千本の滝」（いずれも村指定天然記念物）があげられる。

遺跡の多くは下流部に集中しており、とくに桑野川流域には「桑野遺跡」をはじめとして「内原国高山古墳」や「牛岐城跡」等、多数分布している。

表2 - 1 那賀川地域の文化財指定状況

種 別	件 数	
	那賀川流域	(桑野川流域)
国指定天然記念物	4	3
県指定天然記念物、名勝	7	3
市町村指定天然記念物	25	6
国指定史跡	0	0
県指定史跡	1	1
市町村指定史跡	13	2
国有形文化財	4	4
県有形文化財	19	13
市町村有形文化財	30	5
国無形文化財	0	0
県無形文化財	1	0
市町村無形文化財	1	0
国指定民俗文化財	1	0
県指定民俗文化財	2	2
市町村指定民俗文化財	17	1
合 計	125	40

出典：徳島県の文化財（平成12年）徳島県教育委員会

注）有形文化財とは、絵画・工芸品・彫刻、書跡、考古資料、建造物をさす。

無形文化財とは、芸能・工芸技術をさす。



万代堤

天明8年（1788）、当時の古毛村の庄屋、吉田宅兵衛が阿波藩の命令を受けて本格的堤防工事に着手したのが始まりで、私財をなげうって工事に心血を注ぎ、三代にわたって取り組んだ記録が残っています。



大井出用水と 大井出堰

延宝2年（1674）、佐藤良左衛門によって築造された堰と水門。徳島藩の米の増産が目的でした。文政8年（1825）に、伊沢速蔵によってより強固な堰として完成しました。

2 - 3 自然公園等の指定状況

流域内の各種指定は、自然公園地域、自然環境保全地域及び鳥獣保護区等があげられる。自然公園としては、剣山国定公園、中部山溪県立自然公園及び東山溪県立自然公園が指定されている。

自然環境保全地域に指定されている区域はなく、鳥獣保護区域は10地域（10,541ha）の指定があり、そのうち特別保護区域に6地域（1,294ha）が指定されている。なお、剣山山系等は流域外を含む。

那賀川流域の鳥獣保護区

名 称	面 積 (ha)	名 称	面 積 (ha)
津乃峰	20 (3)	春 森	380 (160)
橋桑野	700	黒滝山	190 (80)
太竜寺	45 (6)	高城山	615
鶴林寺	40	剣山山系	8,330 (995)
南 川	63	合 計	10,541 (1,294)
あいあい らんど	158 (50)	() 書は特別保護地区で内数	



出典：平成15年度 徳島県鳥獣保護区等位置図、徳島県環境資源情報図

図2 - 13 那賀川水系における自然公園位置図